

## あとがき

「気候変動枠組み条約第三回締約国会議」(通称:温暖化防止京都会議、略称:COP3)の開催が目前に迫ってきた。この会議は、今日の環境問題のなかで最も人間に対する影響が重大であるにもかかわらず、その克服の展望が全く見いだせていない地球温暖化を防止するために必要な二酸化炭素の排出削減目標を打ち出せるかどうかが問われている重要な会議である。

地球の温暖化がこのまま進行すれば、21世紀末までに地球の平均気温が2℃前後上昇し、海面の上昇、内陸部の干ばつや海岸地帯の水害の多発、巨大台風の襲来、農業生産への影響、生態系の混乱など、さまざまな影響が地球上で現れることは世界の多数の科学者たちによってまとめられたIPCC(気候変動に関する政府間パネル)報告書でも明らかにされている。さらに、最近の研究によると、気温の上昇速度や二酸化炭素の大気中濃度の増加速度が予測通りに大きくなっていくと、地球自然や生態系が攪乱状態に陥り、もはや回復不能な環境変化が進行することも指摘されている。大気中の二酸化炭素を安定化させるには、現在の世界の排出量を半分にしなければならないことは明らかになっているが、1992年の地球サミットで採択された「気候変動枠組み条約」には排出量を削減することは明記されていない。

そこでこれまでに開催されたCOP1やCOP2を通じて、温暖化防止に必要な二酸化炭素排出量の具体的な削減目標をCOP3で決定することが確認されてきたのである。まさに、健全な未来社会を構築できるかどうかCOP3にかかっているのである。すでにEU(欧州連合)は先進国が2010年までに15%の二酸化炭素の排出削減を、またAOSIS(小島嶼国連合)は20%の削減を主張している。また、いくつかの環境的に先進的な国々はすでに自国の排出削減数値目標をかかげ、その達成のための努力を積み重ねており、決して実現不可能な課題ではないことが示されつつある。しかし、自国の短期的利害から排出削減に反対す

る国も存在し、日本もまだ明確な削減目標を打ち出すには至っていない。

日本国内での温暖化問題に対する認識と関心をもっと高め、開催国としてCOP3を成功させることによって国際的責務と未来世代に対する責任を果たすために、環境教育が果たす役割はきわめて大きい。身近な環境問題と地球規模の環境問題は現象的にも原因面でも密接に関連している。それらの関連と統合の視点に立った環境教育を実践し、温暖化防止が可能な社会づくりのために努力していきたいものである。

(和田 武)

### 査読者一覧

安藤 聡彦	市川 智史	岩谷 美苗
榎本 博明	延藤 安弘	小川 巖
小川 博久	奥井 智久	小原 秀雄
金森 正臣	川島 宗継	木谷 要治
北野日出男	鬼頭 秀一	木俣美樹男
小澤紀美子	佐島 群巳	佐藤 治雄
鈴木 善次	鈴木 紀雄	高山 進
戸田 耿介	中山 和彦	浜口 哲一
原子栄一郎	樋口 利彦	前 圭一
宮里 広作	山下 宏文	山田 卓三
吉田 一良	和田 武	渡辺 隆一

編集委員会の判断で適任と思われる会員のかたに原稿の査読を依頼しています。場合によっては会員外のかたにも査読をお願いすることもあります。

投稿論文を受理した通知が届きましたら、可能な限り、印刷原稿にするためにテキストファイルに保存したフロッピーディスクとプリントアウトしたものを一部用意してください。

